

1年 進路講演会

3月19日（木）午後、現在社会で活躍する4人の戸山高校の先輩をお招きして、1年生の進路講演会が行われました。それぞれ、自分の生き方、社会人としての思いを後輩のために熱く語っていただき、生徒たちが職業や将来について考える良い機会として有意義な時間となりました。



高橋治大（たかはしはるひろ）氏 1996年卒 日本銀行勤務



戸山時代はアメフトに打ち込む。アメリカンフットボール部主将。高校時代は家庭の経済状況等から、将来を想像できなかった。一橋大学法学部奨学金やアルバイトで自活できるようになって将来を考えた。結果を等しく社会に還元できる仕事につきたいと考え、日本銀行に入行。職業は社会の役割分担。その中で重要な歯車になりたいと考えている。



矢野智之（やのともゆき）氏 1992年卒 横浜市立みなと赤十字病院 形成外科

戸山高校時代はスキー部。子供の頃の病気の体験から高校3年で医師を考えるようになった。東京医科歯科大学卒業後、形成外科の医師となり、良い時も悪い時もあった。医者は患者の痛みに共感できる想像力が必要。学習と同じで、多様な視点があれば全体が見えてくる。そのための努力が必要。自分を生かせる場所を見つけよう。



御手洗健治（みたらいけんじ）氏 1969年卒 三菱商事 元東大野球部監督



戸山時代は野球部投手。野球を続けたくて東大をめざした。東大でも野球部中心だったが、三菱商事に入社してからは仕事中心になった。それでも野球とはかわり続け、縁あって東大野球部の監督になった。学生には、礼儀正しく感謝の心をもって、基本に忠実な野球をするよう指導した。努力すれば、思いを実現するチャンスは来る。



鐘尾みや子（かねおみやこ） 1968年卒 日本女性航空協会理事長

12歳の時にパイロットになりたいと思った。当時、パイロットは男の職業。戸山時代も、東京農工大から特許庁へ進んでも少しでも夢に近づくことを考え続けた。30歳で資格を取得。夢を持ち、実現に努力し続ければ、きっと夢はかなう。現在も飛ぶことは楽しいし、これからも飛び続ける。

